

教科	工業	科目名	インテリア計画	単位数	2
学科	インテリア	学年	1 学年	履修区分	必修
使用教科書	インテリア計画(実教出版)				
副教材など					

1. 科目の目的

人間が社会生活を送る多様な空間の概念を理解し、インテリア計画の基礎となる、造形的感性と空間的心理および、環境問題に関する知識や技術を習得し、活用する能力と態度の育成を目的とする。具体的目標として、高学年で学ぶインテリア各種空間の設計に発展する基礎知識を学び、各種専門の資格試験のための基礎学力の確立を目指す。関連する資格の主なものを下記に示す。

- 1) インテリアコーディネーター (インテリア産業協会)
- 2) インテリア設計士 2級 (日本インテリア設計士協会)
- 3) 福祉住環境コーディネーター 2級・3級 (東京商工会議所)

2. 授業の内容と進め方

講義のみの授業にならないように、教科書を理解させるだけでなく、実習・製図科目と連携をとって、各種資格試験の取得にもつながる知識を習得させる。

3. 学習する上での留意点

造形の原理や色彩の概念・テクスチャーなどの装飾の基本、空間の認知・人の行動特性や動作などの空間の考え方、および、気候や光・音・熱などの環境の影響などインテリア空間の計画に必要な諸要素を、できるだけ具体的に身近な現象やデータから理解しやすい方法で学習する。それらの基礎的・基本的な要素を確実に習得し、さらに、人間工学の考え方、インテリアの安全対策、スケールやプランニングのテクニックを加えて、インテリアの空間計画に応用できるような技術を身に付ける。また、講義のみの授業にならないように、実習や製図科目と連携を取って学習を進めて行く。

4. 課題等について

- 1) 配布した問題プリントを解答し、提出させる。
- 2) 各単元において、小テストを行い、そこまでの内容理解度のチェックをする。さらに理解がされていれば合格とし、理解が不足していれば補習・再テストを受け合格するまで繰り返す。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
知識・技術	インテリア計画に必要な諸要素の基礎的・基本的な技術を活かしたインテリア空間プランの提案によって、インテリア計画の技術を身につけているか。また、新たな視点から応用発展的に捉え、実際にインテリア空間プランを提案し、設計製図やパース・CADによって具現化できるか。
思考・判断・表現	インテリア計画に必要な諸要素の基本的な知識や技術を活用し、思考・判断して、具体的な事象に対して深く考えるとともに適切に判断し創意工夫する能力を身につけているか。
主体的に学習に向かう態度	身近な生活空間の諸事象に常に興味を持ち、インテリア計画で学習する基礎的・基本的な技術を実生活で確認したり、調査や実験を行うなど意欲的に取り組み、創造的で実践的な態度であるか。

6. 評価の方法

評価については、定期考査・校内実力テストでの成績や課題の提出状況を平常点として加えて、総合的に判断する。

- 1) 定期考査(授業計画にある通り1年間に4回実施される)結果をもとに学習の内容の理解度、定着度を評価する。
- 2) 校内実力テスト(定期考査を補完する意味で、長期休業明けに校内実力テストが行われる。)
- 3) 授業への取り組み(発表・学習活動への意欲・出席状況)学習意欲、学習態度、学習に取り組む姿勢を評価する。
- 4) 授業時のノートを提出させて整理の状況を評価する。

《指導計画》 科目名 インテリア計画

1 学年

2 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	1. インテリア計画の概要 1.1 インテリアの概念	インテリアとは、建築物の床・壁・天井で囲まれた内部空間のことである。インテリアは物理的・心理的に人間の肌になじみやすい材料によって美しく仕上がっている。ここでは環境や人間の物理的な条件や、人の心理・感性などをきめ細かな見方でとらえ、安全で快適な目的に合った人間の生活空間を提案する技術を学習する。 インテリアデザインにおいて、形態・色彩・テクスチャー・空間などの造形要素が、人間の心理にどのように働きかけるか、具体的に考察していく。人間の感覚の特徴や、造形要素が感覚をどのように刺激するのか、形態・色彩・テクスチャー・空間の要素の順に学習する。さらに、空間における人間の行動の心理的特性について学習する。	行動観察
	5	1.2 インテリア計画		質疑応答
		1.3 生活と住まい		
	6	1.4 住まいの性能		課題提出
	7	2. インテリアの造形と心理		
		2.1 人間の感覚・知覚と造形		小テスト
		2.2 形態		
二 学 期	9	2.3 色彩とテクスチャー	期末考査	
		2.4 空間の認知	行動観察	
	10	2.5 空間行動の諸相	質疑応答	
			中間考査	
		3. インテリアの環境		
	11	3.1 屋外環境	行動観察	
		気 候	質疑応答	
気 候		課題提出		
湿 度		小テスト		
12	風 雨, 日 照	期末考査		
	3.2 屋内環境	行動観察		
	採 光	質疑応答		
	2	照 明	小テスト	
	音, 熱	学年末考査		
3	空 気			
三 学 期				

教科	工業	科目名	インテリア製図	単位数	2
学科	インテリア科	学年	1 学年	履修区分	必修
使用教科書	インテリア製図 (実教出版)				
副教材など					

1. 科目の目的

インテリア製図は幅が広く、建物全体及び、細部（ディテール）における建築製図、建物内装計画によるインテリア製図、設備・製品における機械製図および、家具製図、インテリア空間の完成を表現するパースペクティブ等、多岐に及びます。本科目では、製図に関する日本工業規格及び、インテリア・建築・機械の製図についての基礎的な知識と技術を習得し、製作図、設計図などを正しく読む力、及び、インテリア・建築・家具等の図面を構想し作成する能力と態度を育成することを目的とします。

具体的な目的として、下記に示す製図に関連した検定試験のための基礎学力の確立を目指します。

基礎製図検定 (全国工業高等学校長協会)
インテリア設計士2級 (日本インテリア設計士協会)

2. 授業の内容と進め方

前期は平面図法（線や角の等分割、多角形・楕円等の描き方）及び、立体図法（立体を平面上に正しくあらわす方法、立体の断面の表し方、立体の表面を構成する展開図の描き方）、寸法・記号の記入方法など基礎的な製図技術を学習し、「基礎製図検定」によりその習熟度を確認します。後期は、家具（テーブル・椅子）の設計図（3面図）の描き方、室内を立体的に描くパースペクティブの描き方、及び、その透明水彩による着彩技法を学習します。

3. 学習する上での留意点

デザイナーが考えたものを、製作する人に正しく伝えるのが設計図面の役割であることを理解し、誰が見ても、同じものが製作されるように、製図規約やエレメント記号などを正確に描くことが重要になります。さらに、顧客に提案する図面として、見やすくセンスのある美しい仕上がりが要求されることに留意しなければいけません。実際に、パース技術の良し悪しで契約の有無が左右されることがあるそうです。

4. 課題等について

前期の基礎的な製図技術習得のまとめとしての「基礎製図検定」直前に、早朝補習を10日間実施し、過去問題による模擬検定、および解説を行い、全員合格を目指します。後期の家具製図（テーブル、椅子）、パースペクティブ及び、その着彩は完成作品として提出します。そのために授業時間で不足する分は課題とし、各自の自主学習によって完成させ期日までに提出します。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
知識・技術	・製図規約、エレメント記号、立体の投影図法等の知識が正確で、よく理解し表現できるか。 ・家具製図・パースペクティブの着彩作品のセンス、技術力、完成度。
思考・判断・表現	・図面を正しく読み取ることができ、デザインしたものを図面に正しく起こす能力を身につけているか。
主体的に学習に取り組む態度	・インテリア・建築・機械製図について関心を持ち、作品作成に意欲的に、かつ、根気強く取り組んでいるか。 ・自主学習に努力し、課題を遅滞なく提出しているか。

6. 評価の方法

評価の観点に基づき、次の項目について総合的に判断し、評価します。

- ・出席状況・課題への取り組み、図面作成における製図用具の使い方、および、「基礎製図検定」の結果。
- ・家具製図（テーブル、椅子）作品、パースペクティブ及び、その着彩作品の完成度と提出状況。

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	1. インテリアと製図 2. 製図の用具と材料 製図用具の使用方法 表現技法に用いる用具と材料	製図とはそこに表現された指示どおりに加工や工事を進めていけば、目標どおりの製品や空間ができるものでなくてはいけない。見る人によって解釈に違いが生じないように、明瞭、正確に表現することが重要であることを認識し、平行定規・ドラフターおよび諸製図用具の正しい使用法を学習する。	行動観察
	5	3. 製図の規約 製図の条件 尺度および線と文字 寸法記入法	図面の構成および種類、スケールや製図に使用する線や文字、寸法や記号の記入法等、製図に関する J I S 規格を学習し、正確な図面を作成する技術を習得する	作品完成度
	6	4. 「基礎製図検定」 第三角法・三面図 断面図 補助投影図 展開図	物体の断面図示や、物体の表面を構成する展開図の作図法を学び、正確に図面を作成する技術を習得する。	検定模擬テスト
	7	5. 図法 平面図法	前期の総まとめとして、基礎製図検定を受検し、合格を目指す。 平面図法の基本として、製図に使用する線と文字の種類や線および角の等分・多角形の作図法・楕円の作図法等を学び、実際に作図する技術を習得する。	
	9	6. 家具製図 ミラースタンド 正投影 (第3角法)	家具の構造や部材の接合方法を学習し、正しく理解して、家具製作の基本となる図面を作図する。図面は正確でしかも解りやすいものになることに留意し、基本的な作図の流れに沿って作業を進める。	検定 作品完成度
二 学 期	10	ソーイングボックス 正投影 (第3角法)		作品完成度
	11	サイドテーブル 採寸 正投影 (第3角法)	実際にサイドテーブルを採寸し、スケールを決定後三面図を作成する。	作品完成度
	12			
三 学 期	1	7. CADによる製図 基本操作方法	図面の配置や線の種類の変更、レイヤーの変更など基本的な jw-cad の操作方法を習得し、簡単な三面図の作成する技術を習得する。	操作方法の理解 小テスト
	2	基本図形三面図作成		作業の正確性
	3	基本図形三面図作成2		作業の正確性 小テスト

教科	インテリア	科目名	工業技術基礎	単位数	3
学科	インテリア	学年	1 学年	履修区分	必修
使用教科書	工業技術基礎				
副教材など	産業財産権標準テキスト(特許編、総合編)				

1. 科目の目的

工業に関する基礎的技術を実験・実習によって体験させ、インテリアデザイン・ものづくり・知的財産における技術などへの興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解させると共に、工業に関する広い視野を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を育てることを目的とします。

2. 授業の内容と進め方

年間計画に従って、3班編成(13～14人グループ)で、3テーマをローテーションで進めます。

3. 学習する上での留意点

事前に実習テーマについて説明し、関連科目と連携させながら学習します。また、「木材工芸」における刃物や木工機械の使用においては、特に安全教育・環境整備に最大の留意が必要となります。また、知的財産については、資料の提示を積極的に行い、興味関心を持たせる授業とします。

4. 課題等について

各工程ごとにレポートを提出します。作品製作において授業時間で不足する分は課題とし、各自の自主学習によって完成させ期日までに提出することとします。その際、実習室の使用を認め、刃物や木工機械の使用については職員が付いて指導します。欠席者については、放課後等を利用し欠席した実習項目について補講をします。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
知識・技術	インテリアデザインに関する基礎的・基本的な知識、技術を身につけ、合理的な手順や工程を計画し、安全や環境に配慮し、適切に加工や処理をする方法、それらの意義や役割を理解し表現できるか。
思考・判断・表現	工業全般、特にインテリアに関する基礎的な知識をもとに、ものづくり・知財をする上で直面する諸問題について、その解決を目指して自ら思考を深め、判断できる力と創意工夫する能力を身につけているか。
主体的に学習に取り組む態度	作品製作等ものづくりや知財に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的、実践的な態度を身につけているか。

6. 評価の方法

評価の観点に基づき、出席状況、レポートおよび、作品の提出状況・完成度および、自己評価を加味して総合的に判断し、評価します。

《指導計画》 科目名 工業技術基礎

1 学年

3 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	実習オリエンテーション	① 各実習の目的, 方法などについて, あらかじめ 十分理解する。 ② 実習に安全な服装, 整理整頓と危険防止に留意する。 ③ 積極的, 自主的に行動し, 共同作業はお互いによく協力するよう心がける。 ④ レポートおよび, 作品の提出は, 期限を厳守する。	教師による観察 レポート 自己評価 作品完成度
	5	第1実習テーマ 「木材工芸」	インテリア材料で一番人にやさしい素材が木材である。木材の性質を知る早道は, 実際に自分の手で切ったり, 削ったりしてみることである。手工具及び木工機械を使って, 切断・切削する技術を習得し, 素材の木材からデザインされた家具に変身させる創造性と, ものづくりに取り組む態度を育成する。	
	6			
	7			
二 学 期	9	第2実習テーマ 「デザイン基礎」	デザインの基礎となるデッサン・烏口やガラス棒を使ったレタリングや着色など段階的に学習し, 個々人の技術力の向上を図り, 作品制作へのこだわりを育成し, 興味・関心を高める。	教師による観察 レポート 自己評価 作品完成度
	10	第3実習テーマ 「知的財産権」	工業人において, 特許というものは非常に大切である。各企業においても, 独自に特許の部署を持ち, 各製品を管理している。本実習では, 知的財産権の概要と仕組みを理解し, 特許出願書類の制作方法を習得する。	
	11			
三 学 期	12			教師による観察 レポート 自己評価 作品完成度
	1			
	2			
	3			

教科	工業	科目名	情報技術基礎	単位数	2
学科	インテリア	学年	1 学年	履修区分	必修
使用教科書	情報技術基礎 新訂版(新実教出)				
副教材など					

1. 科目の目的

社会における情報化の進展と意義や役割を理解させ、情報技術に関する知識や技術を習得する。
 また、情報および情報手段を活用する能力と態度の育成を目的とする。
 ※ ウェブデザイン技能検定3級を全員受検。

2. 授業の内容と進め方

まずはワードやエクセルの基本的な使用方法を習得する。その後、ウェブデザインに関する基礎的な知識や技術を学び、最終的には自分が工業基礎などで制作した作品を紹介するサイトをつくる。
 また、ウェブデザイン技能検定3級の取得に向けても並行して学習を行う。

3. 学習する上での留意点

パソコン室での授業を中心とし、自らパソコンを操作しながら基本操作を学習する。
 また、1人1台PCを活用して、家庭学習ができるように予習・復習の指導を行う。
 授業では、課題解決能力を養うために、「自ら考え、やってみる」ことを重点的に指導する。

4. 課題等について

授業の中で行った内容を提出期限を決めて制作させ、その後提出させ、内容の確認をする。
 各單元ごとに小テストを行い、理解度をチェックする。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
知識・技術	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技術を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。
思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。
主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

6. 評価の方法

評価については、定期考査・校内実力テストでの成績や課題の提出状況を平常点として加えて、総合的に判断します。

- 1) 定期考査(授業計画にある通り1年間に5回実施される)。
- 2) 校内実力テスト
- 3) 「ウェブデザイン技能検定3級」(インターネットスキル認定普及協会)。
- 4) 授業への取り組み(発表・学習活動への意欲・出席状況)学習意欲、学習態度、学習に取り組む姿勢。
- 5) 授業時のノートの整理の状況。

《指導計画》 科目名 情報技術基礎

1 学年

2 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	第1章 産業社会と情報技術 1-1 情報と生活 1-2 コンピュータの特徴 1-3 コンピュータの構成 1-4 コンピュータの発達 1-5 情報化の進展と産業社会 1-6 情報化社会の権利とモラル	コンピュータの発達と利用例、情報化の進展が産業社会に及ぼす影響・情報化社会のモラルと管理などについて学習する。 キーボードの操作や記憶装置の取り扱いなど、コンピュータの基本的な取り扱い方法について学習する。 コンピュータにいろいろな処理をさせるために必要なプログラム言語やアルゴリズムについて学習する。	行動観察 小テスト 中間考査 ノート検査 期末考査 ノート検査
	5	1-7 情報のセキュリティの管理		
	6	第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア 2-1 コンピュータの基本操作 2-2 ソフトウェアの基礎 2-3 アプリケーションソフトウェア		
	7	第3章 プログラミングの基礎 3-1 プログラム言語 3-2 プログラムのつくり方 3-3 流れ図とアルゴリズム		
	9	第4章 BASICによるプログラミング 4-1 BASICの特徴 4-2 四則計算のプログラム 4-3 文字データの取り扱い		
	10	4-4 データの読取り 4-5 選択処理 4-6 繰返し処理 4-7 配列処理 4-8 外部関数 4-9 グラフィックス		
	11	第5章 Cによるプログラミング 5-1 Cの特徴 5-2 四則計算のプログラム 5-3 選択処理 5-4 繰返し処理		
二 学 期	12	5-5 配列 5-6 関数 5-7 ファイル処理	中間考査 ノート検査 期末考査 ノート検査	
	1	第6章 ハードウェア 6-1 データの表し方 6-2 論理回路の基礎 6-3 処理装置の構成と動作	コンピュータ内部でのデータの表し方や基本的な論理回路の学習を基に、コンピュータの構成や動作原理・入出力装置などについて学習する。	学年末考査 ノート検査
三 学 期	2	第7章 コンピュータネットワーク 7-1 コンピュータネットワークの概要 7-2 コンピュータネットワークの構成 7-3 コンピュータネットワークの通信技術	コンピュータネットワークの利用機能や技術などについて学習する。	
	3			